

新春特集

持続的に発展する 「未来志向」のまちづくり

宇都宮市長
さとう えいち
佐藤 栄一

明けましておめでとうございます。謹んで、新年のごあいさつを申し上げます。年頭に当たり、本年が皆様にとって明るく、幸多き一年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

2025年を振り返って

昨年の本市の主な施策・事業を振り返りますと、ライトラインの駅西側への延伸に向け、10月に国への認定申請を行うとともに、JR宇都宮駅西口周辺地区の将来像や整備方針などを示した他、中心市街地における民間開発への支援やバンパ通りに関する滞在空間創出の社会実験など、多くの皆さまからのご支援・ご協力を頂きながら、持続可能な都市構造である「ネットワーク型コンパクトシティ（NCC）」の具現化に向けて着実に取り組んでまいりました。

また、女性活躍の推進に向けて、「フエムテック（※1）」の普及促進や女性の相談体制の強化に取り組んだ他、市立小中学校・保育施設などにおける給食費の支援や、「プレコンセプションケア（※2）」の認知度向上に向けた「プレコンスタートブック」の作成・周知など、少子化対策・子育て支援策を充実・強化してまいりました。

こうした本市のまちづくりやその成果を「2025大阪・関西万博地方創生SDGsフェス」をはじめとしたあらゆる機会を通して、

国内のみならず世界に向けて発信してまいりました。

2026年の決意

社会経済環境が目まぐるしく変化する中であっても、将来世代へ負担を先送りすることなく、持続的に発展していく「未来志向のまち」として、誰もが豊かで便利に安心して暮らすことができ、夢や希望がかなうまち「スーパースマートシティ」を創り上げられるよう、まちづくりに邁進してまいります。「スーパースマートシティ」の実現に向けては、市民のウェルビーイング（※3）を向上するとともに、本市の活力を維持できるよう「安心して働き、暮らせる環境づくり」、「人口の自然減の改善」、「人口の社会増の維持」、「NCCの形成」に必要となる未来への投資を着実に進めてまいります。

また、市制130周年を迎える本年は、市民の皆さまとともに、これまでの歩みを振り返りながら、先人が築き上げてきたこの素晴らしい宇都宮の未来を明るく照らし上げていけるよう、全市を挙げて盛り上げてまいりますので、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

皆さんの市政へのご意見を聞かせてください



▲市長とトーク



▲ふれあいトーク

「まちづくり懇談会」や「市長とトーク」、「ふれあいトーク」などにおいて、地域の人や若者と、市長が直接意見を交換しています。

また、宮だよりとして市長へのメール、miyaユースポスト（若者からの意見箱）、ふれあい通信で、ご意見を随時受け付けています。



ID 1009657

◀宮だより



ID 1034533

◀miyaユースポスト



※1 「Female（女性）」＋「Technology（技術）」の造語で、女性特有の悩みを先進的な技術で解決すること。
 ※2 お腹に新しい命を授かる（妊娠）前の健康管理。
 ※3 身体的・精神的・社会的に良い状態のこと。



2025年の 振り返り

8月、「ライトライン」が開業から2周年を迎え、利用者数1,000万人を突破しました。



令和7年度を「女性活躍加速化元年」として、川面充子さん、^{さいとうあづさ}斎藤悦子さんを女性活躍推進専門官に任命するなど、推進体制を強化し、女性サポートを充実しています。



「宇都宮ブルックス」が、リそなグループB.LEAGUE2024-25シーズンのチャンピオン、アジアクラブNo.1に輝き、多くの市民に夢と感動を届けてくれました。



「2025大阪・関西万博 地方創生SDGsフェス」に本市のブースを出展、1万人以上の人に来場いただきました。



宇都宮の魅力を発信するため、本市との関わりが深い山田邦子さん(タレント)と鈴木章弘さん(宇都宮餃子会専務理事兼事務局長)を「宇都宮ブランドアンバサダー」に委嘱しました。



本市の夏の風物詩である「ふるさと宮まつり」が第50回の節目を迎えました。大勢の来場者で、街中は大いににぎわいました。



6年の姿



安心して働き、暮らせる環境づくり

暮らしに直結する課題への対応の強化

- ▼物価高騰などの影響を受ける市民や事業者に対し、適切な支援策を充実。
- ▼降雨量の増加などによる床上浸水被害の早期解消を図るため、治水・雨水対策を総合的に推進。
- ▼熱中症から子どもを守るため、小・中学校施設の空調設備更新・導入を着実に実施。
- ▼CO₂排出量の削減に向け、「脱炭素先行地域」における太陽光発電設備・蓄電池などの導入を促進。

地域のつながり・支え合いの強化

- ▼自治会の加入促進や活性化などに向けた取り組みの実施。
- ▼「児童相談所」の設計に着手するとともに、人材の確保・育成などの体制づくりを実施。
- ▼障がい者とその介護者が安心して日常生活を送れるよう、「親なき後」を見据えた相談体制の強化。



人口の自然減を改善する取り組み

少子化対策・子育て支援策

- ▼「プレコンセプションケア」の普及促進。
- ▼天候に左右されず子どもが活動できる場の整備に向けた取り組みの実施。
- ▼小・中学校の給食費に対する支援など、子育て世代を幅広く支援。

健康寿命の延伸

- ▼「高齢者外出支援事業」でタクシーを利用できるよう準備を進めるなど、高齢者外出支援策の強化に向けた検討。
- ▼天候に左右されない屋内プールの新設に向けた検討。



人口の社会増を維持する取り組み

■本市への新たな投資の促進

- ▼新たな産業団地の整備に向けた取り組みなど、企業の立地・定着の促進。

■賑わいの創出

- ▼ライトライン沿線におけるアーバンスポーツを核とした新たな拠点である「アークタウン宇都宮」を3月に開園するとともに、開園を記念したイベントを開催。
- ▼人と食が集う拠点となる「中央卸売市場賑わいエリア」を3月にオープン。
- ▼令和9年度に開園100周年を迎える八幡山公園について、民間活力を活用した施設の整備。
- ▼「北西部地域体育施設」について、令和9年度供用開始に向けた整備に着手。

■多様な人材の交流と活躍の促進

- ▼あらゆる分野における女性活躍人材の掘り起こしや養成、資質の向上。
- ▼市民、事業者、地域団体など、さまざまな主体との「交流・対話」の機能の充実。



▲アークタウン宇都宮



▲中央卸売市場賑わいエリア



2022
ま

NCCの形成

■交通ネットワークの強化

- ▼令和10年のライトライン駅西側延伸区間の着工に向けた、設計・調査などを着実に実施。
- ▼バス路線の再編に向けた検討や地域内交通の利便性向上、更なる運賃負担の軽減。
- ▼都心環状線の整備を進め、3月に、都心環状線を含む「3環状12放射道路」を全線開通。
- ▼「(仮称)大谷スマートインターチェンジ」の着実な整備。

■魅力あるまちなか空間の創出

- ▼J R宇都宮駅西側における、魅力ある都市空間の形成と、交通結節機能・滞在機能の向上に向けた取り組みの実施。
- ▼都心部における民間開発事業に対する支援。

